

Godox 神牛

X1

TTLワイヤレスフラッシュトリガー
TTL Wireless Flash Trigger

For Olympus、Panasonic

取扱説明書



深圳市神牛摄影器材有限公司

GODOX Photo Equipment Co., Ltd.

所在地/Add: 深圳市宝安区福海街道塘尾社区耀川工业区厂房2棟1階~4階、4棟1階~4階

1st to 4th Floor, Building 2/ 1st to 4th Floor, Building 4, Yaochuan Industrial Zone,

Tangwei Community, Fuhai Street, Bao'an District, Shenzhen 518103, China

電話 /Tel: +86-755-29609320(8062) ファックス /Fax: +86-755-25723423

電子メール/E-mail: godox@godox.com

705-X1T200-10

Made In China



目次

02	はじめに	07	トランスミッターの設定
03	警告		電源スイッチ
04	部品		HSS/ハイスピードシンクロスイッチ
	本体		チャンネルの設定
	トランスミッターディスプレイ		モードの設定
05	電池		グループパワー/POWER/露出補正FECの設定
	電池の装着		ストロボグループピニングスイッチの設定
	低電池残量指示		ストロボパラメーターの設定
06	フラッシュトリガーの使い方		グループ値の設定
	ワイヤレスシンクロトリガーフラッシュ		テスト発光
	PCポートによるワイヤレストリガーフラッシュ		モデリングランプのコントロール
			自動に節電モードに入ります
			C.Fn:カスタム機能の設定
			カメラ側の設定
			操作方式の選択
		20	注意事項
		20	フラッシュトリガーの保守
		21	仕様
		22	対応カメラ

X はじめに

この度はX1T-O TTLワイヤレスフラッシュトリガーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本TTLワイヤレスフラッシュトリガーはOlympus、Panasonicカメラに適用し、神牛フラッシュをコントロールでき、また、リモートで直接で全面的に神牛Xワイヤレスシステムを搭載しているフラッシュ（例えばTT685S、V860IIS、AD360II、AD600、AD600M、ヴイングIIシリーズなど）をコントロールできます。Xワイヤレスシステムを搭載していないフラッシュ（例えばV860、V850、AD360など）の場合、XTR-16またはXTR-16Sレシーバを使ってM発光制御を実現できます。本製品は信号が安定で、反応が速く、カメラマンのライティングに便利であり、各種撮影需要を満たすことができます。同時に、PCポートを有しているカメラと接続できます。ハイスピードフラッシュシンクロをサポートし、最大フラッシュシンクロ速度は1/8000s*に達しています。

*：制限条件——カメラの最大シャッター速度は1/8000 s です。

警告

- ⚠ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックし、メンテナンスします。
- ⚠ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックし、メンテナンスします。
- ⚠ 子供に本製品を触れさせないでください。
- ⚠ 燃焼しやすく爆発しやすい環境で使用しないでください。このような場合、関係警告マークに注意してください。
- ⚠ 50℃を超えた高温環境で置かないでください。
- ⚠ いかなる故障が起こった場合、直ちにトリガーの電源を切ってください。
- ⚠ 電池使用時の注意事項は下記の通りです。
 - 本マニュアルに記載された電池だけを使うことができます。新しい電池と古い電池またはタイプの違った電池を混ぜて使わないでください。
 - メーカーの提供した警告または指示を詳しく読んで遵守してください。
 - 電池を短絡させたり、電池を分解したりしないでください。
 - 電池を火の中に捨てたり、加熱したりしないでください。
 - 電池を装着する時に、電池の極性を間違わないでください。
 - 電池が切れると、液漏れしやすくなります。製品を損なわないため、長期間にわたって使わない時、または電池が切れた時に、電池を取り出してください。
 - 損なわれた電池中の液体が皮膚または衣服に触れた場合、直ちに大量な清水で洗い流してください。

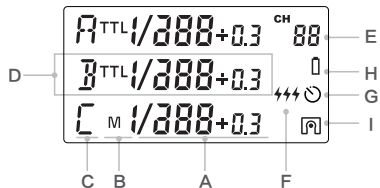
部品

● 本体



部品

トランスミッターディスプレイ



- (A) Mモードにおける各グループ出力の設定、TTLモードにおける各グループFECの設定
(B) グルーピングモードの設定 (C) グループ (D) カレント選択済みグループ（操作方式2）
(E) チャンネル設定 (F) Multiモード符号 (G) シンク口遅延設定提示 (H) 低残量アラームアイコン
(I) シングルコンタクトモード設定済み指示

電池

●電池の装着

トランスミッターとレシーバ裏面にある電池ボックスのカバーをスライドさせ、電池ボックス内の正負極指示によって、2本のAA電池（別に購入する必要があります）を装着します。

●低電池残量指示

電池残量が低い時（2本電池<2.0V）、低残量アイコンは点滅します、この時に電池を交換してください。もしないと、距離は遠い時に、ミスフラッシュしたり、フラッシュしなかったりすることがあります。



フラッシュトリガーの使い方



重要な説明

ZOOM設定機能を使用したい場合、セットトップランプの自動ZOOM機能を起動してください。

本フラッシュトリガーは下記の機能を有しています。

1. ワイヤレスシンクロトリガーフラッシュ

使い方：

- 1.1 カメラの電源を切り、トランスミッターをカメラホットシューソケットに置き、トランスミッターの電源スイッチとカメラの電源をオンにします。
- 1.2 「チャンネル設定ボタン」を通じてチャンネルを選択し、トランスミッターとレシーバのチャンネルを一致させます。
- 1.3 カメラのシャッターを押すだけで、トリガーできます。同時にレシーバとトランスミッターの「状態インジケーター」が赤色に点灯します。



2. PCポートによるワイヤレストリガーフラッシュ

使い方：

- 2.1 トランスミッター側とレシーバ側のチャンネルとグループを設定します。
- 2.2 トランスミッター側のデフォルトはPCポートを入力ポートとし、レシーバ側のフラッシュを制御して発光させます。
- 2.3 正常方式でシャッターを押します。PCポート信号を使用して発光を制御します。
- 2.4 PCポートを出力ポートに設定できます。設定方法は次の通りです。トランスミッター側で<CH/OK> ボタンを長押しし、ディスプレイに<Fn>を表示させ、C.Fn-03値をouに設定し、PCポートを出力モードに設定します。



X トランスミッターの設定

● 電源スイッチ

電源スイッチを「ON」にするだけで電源をオンにすることができ、状態インジケータは表示します。

注意：節電するために、長時間にわたって使用しない場合、電源をオフにしてください。

● HSSハイスピードシンクロスイッチ

スイッチを「ON」にすると、HSSハイスピードシンクロは起動します。HSS/ハイスピードシンクロ起動後、グルーピングモード設定アイコンは引き続き点滅します。スイッチを「OFF」にすると、HSSハイスピードシンクロはシャットダウンします。

● チャンネルの設定

1. <CH/OK> ボタンを短押しして、チャンネル値は点滅します。
2. ダイヤルを回して適当なチャンネル値を選択します。再度<CH/OK> ボタンを押して、カレントチャンネル値は選定されます。
3. フラッシュトリガーは合計32個のチャンネルを持っており、1~32チャンネルの中で切り替えることができます。使用前にトランスミッターとレシーバを同じチャンネルに設定してください。



● モードの設定

1. <GR> ボタンを短押しすると、選択されたグループは点滅し、シングルクリックして下へ選択し、ダブルクリックして上へ選択します。
2. <MODE> ボタンを短押しすると、選択されたグループのモードは変更されます。カレントグループはTTL/M/--モードで、順次に切り替わります(--はOFFを示し、カレントグループが発光しません)。



X トランスミッターの設定

● グループパワーPOWER/露出補正FEC値の設定

1. <GR> ボタンを短押しすると、選択されたグループは点滅し、シングルクリックして下へ選択し、ダブルクリックして上へ選択します。
2. ダイヤルを回してパワーまたは露出補正を変更します。カレントグループはMモードにある場合、そのパワー出力値はMin. ([注1])~1/1の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループはTTLモードにある場合、そのFEC値は-3~3の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループモードは-- (発光オフ) である場合、何の影響もありません。
3. 再度<CH/OK> ボタンを短押しして、設定値を確認します。



[注1]

Min.はMまたはMultiモードで設定可能な最低出力値をさします。C.Fn-05の設定値によってそれぞれ1/128または1/256です。多くのセットトップランプで、サポートする最低出力は1/128であり、1/256に設定できません。神牛会社のAD600などのハイパワースタジオランプと組み合わせると、最低出力を1/256まで調整できます。

● ストロブグループリングスイッチの設定

1. カスタム機能の中でストロボモード (C.Fn-04をonに設定します) を起動します。
2. <GR> ボタンを短押しして、グループを選択し、シングルクリックして下へ選択し、ダブルクリックして上へ選択します。
3. <MODE> ボタンを短押しすると、選択されたグループのモードは変化されます。
4. カレントグループのモードはon/--モードで順次に切り替わります(--はOFFを示し、カレントグループが発光しません)。



X トランスミッターの設定

● ストロボパラメーターの設定

1. ストロボモードに入ってから、ストロボパラメーターの設定に入ることができます。
2. <MODE> ボタンを押して、ストロボパラメーター設定のサブメニューに入ります。
3. 三行の表示内容はそれぞれP (出力値)、T (発光回数)、H (発光周波数) です。
4. <GR> ボタンを短押しすると、対応する設定値を選択できます。設定値が点滅している時に、ダイヤルを回して設定値を変更できます。<GR> ボタン短押しし続けて、三つの設定値を全部設定します。<MODE> ボタンを短押しして、設定状態を退出します。



! 発光回数は発光出力値と周波数に制限されます。設定された発光回数はシステムに許容された上限を超えてはいけません。レシーバ側に伝送された回数は実際発光回数であり、カメラのシャッター設定とも関係があります。正常なストロボ回数を確保するため、下記の計算式を使ってカメラのシャッター速度を計算してください。ストロボ回数÷周波数=シャッター速度

● グループ値の設定

1. <GR> ボタンを長押しして、あらゆる有効グループと一緒に設定できます。
2. あらゆる有効グループのグループ値は点滅し、ダイヤルを通じて設定値を変更できます。一つの有効グループは最大値またはMin. 値になると、有効グループの値は変化しません。
3. カレントグループはMモードにある場合、パワー出力値は一つのグループの値が最大値 (1/1) または最小値 (Min.) になるまで、Min. ~1/1の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループはTTLモードにある場合、あらゆるモードが同じくTTLであるグループのFEC値はシンクロに調整されます。FEC値は一つのグループの値が最大値 (3) または最小値 (-3) になるまで、-3~3の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループモードは-- (発光シャットダウン) である場合、何の影響もありません。
4. <GR> ボタンを短押しして、設定値を確認します。

X トランスミッターの設定

● テスト発光

1. <TEST> トリガーボタンを押して、発光は正常であるか否かをテストできます。
2. <TEST> トリガーボタンを全押しすると、この時の状態インジケータは赤色に点灯し、レシーバ側のフラッシュをトリガーします。
3. トランスミッターの設定値は同時にシンクロにレシーバに伝送されます。



● モデリングランプのコントロール

<CH/OK> ボタンをダブルクリックしてモデリングランプのスイッチをコントロールできます。

● 自動に節電モードに入ります

1. トランスミッターの操作を中止してから60秒後に、システムは自動に待機モードに入り、この時LCD表示は消えます。
2. システムを呼び覚ましたい場合、いずれかのボタン (<TEST> 全押し / <CH/OK> / <GR> / <MODE>) を押すことができます。トランスミッターはOlympus、Panasonicカメラのホットシューに取り付けられた場合、カメラのシャッターを半押しすることを通じてシステムを呼び覚ますことができます。
3. トランスミッターにシングルコンタクトモード (表示) が設定された場合、節電モードに入りません。

X トランスミッターの設定

● C.Fn : カスタム機能の設定

下記の表にある本製品応用欄を参照して、カスタム機能を使って設定を完了させます。

カスタム機能番号	機能	設定番号	設定と説明
C.Fn-00	シンク口遅延設定	00	遅延無し
		1~100	遅延N*100us発光(遅延アイコン  表示)
C.Fn-01	シングルコン タクトモード	--	シャットダウン
		on	起動(シングルコンタクトモード設定済みアイコン  表示)トランスミッターはPCケーブルでカメラと接続されたりがーされたり、カメラはシングルコンタクトを通じてトリガーされ足りる場合、トランスミッターをシングルコンタクトモードに設定することをお勧めします。
C.Fn-02	Zoom値の設定	--	Zoom機能オフ
		20,24,28,35, 50,70,80, 105,135,200	固定Zoom値 (20/24/28/35/50/70/80/105/ 135/200mm)
C.Fn-03	Pcポートをカメラ/フ ラッシュと接続します	in	入力：PCポートはカメラと接続します
		ou	出力：PCポートはフラッシュと接続します
C.Fn-04	ストロボ発光 オン、オフ	--	ストロボ発光オフ
		on	ストロボ発光オン
C.Fn-05	M/Multi模式下 最小 出力率	1/128	M/Multi最低出力パワーは1/128です
		1/256	M/Multi最低出力パワーは1/256です

X トランスミッターの設定

カスタム機能番号	機能	設定番号	設定と説明
C.Fn-06	グループ数	03	A/B/C
		05	A/B/C/D/E
C.Fn-07	フラッシュ提示音	--	オフ
		on	オン

- 1.<CH/OK> ボタンを2秒またはそれ以上長押しして、<Fn> を表示させます。
- 2.カスタム機能番号を選択します。
* 調整つまみを回してカスタム機能符号を設定します。
- 3.設定を変更します。
* <GR> 設定ボタンを押すと、カスタム機能番号が点滅します。
* 調整つまみを回して欲しい番号を設定し、<GR> ボタンを押して確認します。
* カスタム機能を設定した後、<MODE> モードを押してボタンを選択すると、C.Fn設定状態を退出します。

● カメラ側の設定

カメラの発光モードは強制発光、赤目防止強制発光または後幕シンク口発光モードに設定してから、X1T-Oをトリガーできます。

X トランスミッターの設定

Olympusカメラ発光モードの設定:

AUTO	自動発光	暗い時または逆光の時に撮影する場合、フラッシュは自動に発光します。
	強制発光	いかなる光線条件で発光を操作できます。
	発光無し	フラッシュは発光しません。
	赤目軽減発光	この機能を使用すると、赤目現象を軽減できます。SとMモードでフラッシュは始終発光します。
⚡ SLOW	スローシンクロ (第1幕)	遅いシャッター速度で暗い背景を明るくさせます。
SLOW	スローシンクロ (第1幕) 赤目軽減発光	スローシンクロと赤目軽減の組み合わせ。
⚡ SLOW2/ 2nd Curtain	スローシンクロ (第2幕)	フラッシュはシャッターがシャットダウンするすぐ前に発光し、移動光源の後ろに光軌跡効果を作成します。
⚡ FULL、 ⚡ 1/4等	手動	手動操作の好きなユーザーに適します。OKボタンを押した後、INFOボタンを押すと、ダイヤルを使って発光レベルを調整できます。

X トランスミッターの設定

Panasonic カメラ発光モードの設定:

MENU → 【撮影】→【発光】→【発光モード】	
(【強制発光オン】) (【強制発光オン/赤目軽減】)*	<p>いかなる撮影条件でも、撮影するたびにフラッシュを起動させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本機能は逆光または蛍光灯の下にある被写体を撮影する時に使われます。
(【スロースピードシンクロ】) (【スロースピードシンクロ/赤目軽減】)*	<p>暗い背景にある景色を撮影する時に、本機能はフラッシュを起動すると同時にシャッター速度を遅くさせることができます。暗い背景にある景色はより明るく見えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本機能は暗い背景の前にある人物を撮影する時に適用します。 ●遅い速度で運動物体を撮影すると、ぼんやりした画像になる恐れがあります。三脚を使うことによって、写真の精細度を強化できます。
(【強制発光オフ】)	<p>いかなる撮影条件でもフラッシュは起動しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本機能はフラッシュ使用禁止の場所で撮影する時に適用します。 ●外付けフラッシュを使用している時だけ、本機能は使用できます。

X トランスミッターの設定

Panasonicカメラ発光ノードの設定:



後幕シンクロに設定します

適用モード:  P A S M

後幕シンクロはスローシャッター速度で自動車のような運動している物体を撮影する時に、シャッターがシャットダウンする前にフラッシュを起動する撮影方法を指します。

メニューを選択します。

MENU →  【撮影】 → 【発光】 → 【発光モード】

[1ST]	前幕シンクロ フラッシュによる撮影する一般的な方法です。	
[2ND]	後幕シンクロ 光源は被写体の裏に当たり、画像をよりダイナミックにさせます。	



発光モード

X トランスミッター

• 操作方式の選択

<CH/OK> ボタンを5秒長押しして、操作方式(方式1/方式2)を切り替えます。
X1T-O操作方式1 (デフォルト)

TTL/Mモード		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります。
	ダブルクリック	モデリングON/OFFをコントロールします。
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります。
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	下へ設定グループを選択します
	ダブルクリック	上へ設定グループを選択します
	2秒長押し	あらゆるグループを選択します
MODE	短押し	設定グループ発光モード(TTL/M/OFF)の切替
つまみ	状態	機能
	常態	無し(3グループ)/ページターニング(5グループ)
	channel状態の設定	channel数値を調整します
	グループ状態の設定	グループパワー-POWER/露出補正FECを調整します

X トランスミッター

Multiモード(C.FN-04-on)		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(状態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	下へ設定グループを選択します (PTH状態で)設定パワー-power/回数times/周波数hzを選択します
	ダブルクリック	上へ設定グループを選択します
MODE	短押し	設定グループ状態でON/OFFをコントロールします
		(PTH状態で)常態に戻ります
		常態でPTH状態 (P-パワーpower、T-回数times、H-周波数hz) に入ります
つまみ	状態	機能
	常態	無し(3グループ)/ページターニング(5グループ) [注3]
	channel常態の設定	channel数値の調整
	パワー状態の設定	パワー数値を調整します
	回数状態の設定	回数数値の調整
	周波数状態の設定	周波数数値の調整

X トランスミッター

X1T-O操作方式二

TTL/Mモード		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプのON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	設定パワー-POWER/露出補正FECを選択します
	2秒長押し	あらゆるグループを選択します
MODE	短押し	(常態で)<▶グループ>モード(TTL/M/OFF)の切替
つまみ	状態	機能
	常態	設定<▶グループ>を選択します
	channel状態の設定	channel数値の調整
	グループ状態の設定	設定グループのパワー-POWER/露出補正FECの調整

トランスミッター

Multiモード(C.FN-04-on)		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプのON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	(PTH状態で)設定パワーpower/回数times/周波数hzを選択します
MODE	短押し	(常態で)<▶グループ>のON/OFFをコントロールします
		(PTH状態で)状態に戻ります
	2秒長押し	PTH状態(P-パワーpower、T-回数times、H-周波数hz)に入ります
つまみ	状態	機能
	常態	無し(3グループ)/ページターニング(5グループ) [注3]
	channel状態の設定	channel数値の調整
	パワー状態の設定	パワー数値を調整します
	回数状態の設定	回数数値の調整
	周波数状態の設定	周波数数値の調整

注意事項

- 1.正しくトリガーしたり撮影したりすることができなかった場合、電池が正しく装着しているか、フラッシュトリガーの電源を入れているか、フラッシュトリガーが同じチャンネルに設定されているか、接続ケーブルまたはホットシューソケットが正しくしっかりと接続されているか、機能モードが正しく設定されているかを確認してください。
- 2.カメラが撮影できるが、フォーカスできない場合、本体またはレンズはMF（マニュアルフォーカス）に設定されているか否かを確認してください。AF（オートフォーカス）に設定してください。
- 3.フラッシュトリガーは他人の干渉によってトリガーされたり撮影されたりする場合、フラッシュトリガーのチャンネル設定を変更するだけで良いです。
- 4.トリガー距離が限られたり、ミスフラッシュ現象があったりする場合、電池残量が切れているか否かを確認してください。電池を交換してみてください。

フラッシュトリガーの保守

- 落下防止：**強いショックまたは振動を受けると、フラッシュトリガーは故障になることがあります。
- 乾燥維持：**本製品は防水機能を持っていないため、それを水中に浸したり、湿度の高い環境に置いたりすると、故障になり、内部構造に錆が出て修理不能な損害を受ける可能性があります。
- 温度急変防止：**温度の急変、例えば寒い季節に暖かいビルを出入りすることはフラッシュトリガーの内部に結露を起こさせることがあります。温度の急変による結露を避けるため、予めフラッシュトリガーをバッグまたはプラスチック袋に入れてください。
- 強磁場から遠く離れること：**ラジオ放送トランスミッターなどのデバイスによる強い静電または強磁場は本製品の正常動作を干渉する可能性があります。

X 仕様

タイプ	X1T-O
類型	Olympus、Panasonicバージョン
対応カメラ	あらゆるPC出力ポートを持ったカメラをサポートします
ワイヤレス内蔵	2.4G周波数
変調方式	MSK
給電方式	2*AA電池
手動発光	あり
TTL自動発光	TTL
ストロボ発光	あり
ハイスピードシンクロ	あり
露出補正	あり、±3段階の間で1/3段をステップとして調整できます
露出ロック	あり
補助フォーカシング	手動起動
後幕シンクロ	あり（カメラ側の設定）
制御可能なスレーブ ユニットグループ	5グループまで(A/B/C/D/E)
伝送範囲(約)	>100m
チャンネル	32個

X 仕様

その他	
遅延設定	あり(0~10ms、100usを単位として設定します)
ZOOM設定	トランスミッターを通じてフラッシュ焦点距離値を調整できます
ディスプレイ	ワイドスクリーン液晶表示、バックライト起動またはシャットダウン
出力ポート	トランスミッター：PCポート入力、出力。
ファームウェアアップ グレード	本体にあるMicro USBを通じて、ファームウェアアップグレードを行ないます。
記憶機能	設定されたパラメーターは2秒後に自動に記憶され、再起動すると、自動に復元されます。
トランスミッターの サイズ/正味重量	72x75x52(mm)/100g

X 対応カメラリスト

Olympus、Panasonicカメラのフラッシュコントロール方式によって、下記の種類に分けられます。

Olympus: PEN-F, E-P3, E-P5, E-PL5, E-PL6, E-PL7, E-PL8, E-M1, E-M10II

Panasonic: DMC-G85, DMC-GH4, DMC-GF1, DMC-GX85, DMC-LX100, DMC-FX2500GK



●このリストに記載されたのはテストされたカメラのタイプであり、あらゆるOlympus、Panasonicのカメラを含んだものではありません。他のカメラのタイプについて、ユーザーは自分でテストしてください。

●弊社は予告なしにこのリストに記載された内容を変更することがあります。